

姉妹都市 フェアフィールドでの留学体験記



蕪崎市の姉妹都市である、アメリカ・カリフォルニア州フェアフィールド市へ「姉妹都市中学・高校生派遣事業」の交換留学生として派遣された6名の生徒たちが、23日間の日程を終え1月10日に帰国しました。

この間、外国でのホームステイ体験を通じて、それぞれ学んだことや感じたことなどについて、感想を寄せてもらいましたので紹介します。



「伝えたいこと」

甲府東高校 向山 亜貴

沖縄への修学旅行から帰った翌日、私は両親と友達に見送られアメリカに出発しました。初めて行く憧れの海外で、夢のホームステイ…見るもの聞くもの全てが英語の世界の23日間に喜びと不安を抱えていました。

ホストファミリーとの初対面では、私に初めて会ったにも関わらず、笑顔で明るくハグしてくれ、そんな不安を一気に取り除いてくれました。

盛大なクリスマスだけでなく、空・山・海・動物・植物などの大陸の自然。街・学校・ショッピング・食事などの日常生活。様々な物を見て、触れて…日本では決して体験できないことを学ぶことができました。また海外への関心が更に高まり、これから先も交流を続ける為に、英語力をもっと伸ばしたいと強く思いました。

帰国した今感じることは、この派遣事業で、もっと多くの学生に素晴らしい経験をしてもらい、両市の友好を更に深めて欲しいということです。

貴重な経験をさせてくれた両親と、滞在にあたってのアドバイスをしてくれた先輩方に感謝しています。ありがとうございました。

●フェアフィールド
サンフランシスコ ラスベガス
ロサンゼルス

フェアフィールド市は、アメリカのカリフォルニア州ソラノ郡の中心都市です。一年を通しての温暖な気候と明るく親しみやすい人柄が、フェアフィールドの特徴です。5月から10月頃までは乾季にあたりほとんど雨が降らず、11月から4月頃が雨季にあたります。見渡す限りの広大な台地に小さな丘が点在し、基幹産業のひとつに、ブドウや桃、梨などの果樹栽培があります。サンフランシスコやサクラメントの通勤住宅地にもなっています。

この学生相互派遣のほかの国際交流事業としては、昨年8月より、市内中学校英語指導助手として、フェアフィールド市民であるケリー・コートライトさん（広報にらさきにケリーのワンポイント英会話を連載中（今月はP5掲載））が来蕪しています。



「初めてのアメリカ」

葦崎東中学校 池上 侑花



今回、私はホームステイを初めて体験し、初めてのアメリカでした。まず、私が一番驚いたことは「洗濯」です。日本では、毎日きちんと洗濯をし、外に干します。しかし、アメリカでは、5日に1回大きな洗濯機で洗い、乾燥機を使って乾かします。とても驚き、カルチャーショックでした。アメリカに着いて2日目に「昨日の洗濯はどこにありますか？」とホストマザーに聞いたら、家族全員に「日本とは違うんだよ」と教えられ、笑われてしまいました。まだカルチャーショックは沢山あって、日本とアメリカはすごく違う生活をしていることが分かりました。次に、私が一番楽しいと思ったことは、「モントレー旅行」です。モントレーでは、きれいな海を見て、買い物しました。

海では、美聡さんと岩の上に立って、「大丈夫濡れないだろう」と思っていました。また、私がもっと英語を勉強し、もっと上手になったらアメリカに行って再会したいと思います。

この23日間は、一生忘れない、私の大切なものになりました。



ていたら、大きな波が来てずぶ濡れになってしまいました。でも、とてもおもしろかったので大切な思い出です。

ホテルの部屋は、亜貴さんと一緒に、夜一緒に色々な話をするのがとても楽しく、気付いたら何時間も話していたことがありました。

他にもディズニーランドへ連れて行ってくれたことや、みんなと一緒に遊んだことなど、すべてが私の宝物になりました。

また、私がもっと英語を勉強し、もっと上手になったらアメリカに行って再会したいと思います。

この23日間は、一生忘れない、私の大切なものになりました。

「アメリカでの生活を通じて」

葦崎西中学校 秋山 美聡

私は、最初3週間という初めての経験を、楽しみでもあり、不安にも思っていました。

しかし、日数がたつにつれ、アメリカでの生活を楽しめるようになっていきました。それは、ホストファミリーがとても優しく接してくれたからです。言葉が違うということに関係なく、一緒に雑誌を読んだり、テレビを見たりするのは本当に楽しかったです。日本語を教えてあげたり、また知らなかったアメリカの文化を教えてもらい、驚くことがたくさんありました。食事の仕方、クリスマスの過ごし方など、日本では体験できないことをたくさん体験することができ、この派遣事業に参加させていただき、本当に良かったです。

もっとたくさん英語を勉強して、もう一度フェアフィールド市に行きたい、ホストファミリーに会いたいと強く思っています。

「新発見の23日間」

葦崎東中学校 大柴 都

23日間のアメリカでのホームステイを体験して、たくさんの思い出を作ることができました。

ホストファミリーとの生活は、最初はちゃんと会話ができるかととても不安でした。でも、一生懸命伝えようとすればちゃんとわかってくれたので、だんだんコミュニケーションをとることができるようになっていきました。アメリカ人はとてもフレンドリーで初対面の人でも気軽に話しかけてくれて、私もすぐになじむことができ、カードゲームをしたり、買い物をしたり、一緒にテレビを見たりして毎日の生活を楽しむことができました。

23日間のホームステイは、私にとってとても貴重な経験になりました。

お世話になったフェアフィールドの方々、一緒に行った仲間にとっても感謝しています。ありがとうございました。



「アメリカ旅行を終えて」

甲陵中学校 堀内 咲希

3週間の中で私はいろいろなことを学ぶことができました。この旅行は、私にとって一生の宝物になると思います。

今回の私のホストファミリーは、去年私が受け入れたアマンダの家族でした。彼女のお母さんやお父さんはいつも私のことを心配し、気遣ってくれました。アマンダとは、一緒にクッキーを焼いたり、クリスマスツリーの飾り付けをしたりしました。他のホストファミリーも私にたくさんのことを教えてくれ、たくさん遊んでくれました。

アメリカ旅行で経験した事は数えきれません。パークレー市内観光、ショッピング、モントレール旅行、パーティーなどたくさんありました。その中でも私が一番新鮮に感じた出来事は、スリープオーバーです。一つのホストファミリーの家に他のホストファミリーが集まり、一晩中映画を見たり、おしゃべりを楽しみます。日本ではなかなか出来ないこの体験は、とても新鮮に感じられました。

私が、アメリカの食生活に慣れるのに1週間はかかりませんでした。最初、アメリカの食べ物を見た時、大きなカルチャーショックを受けました。全て



が大きく、味が濃く、油っこい印象を受けました。それでも食べ慣れると意外と平気でした。日本に帰ってきた時、おにぎりを食べて腹痛になりました。自分がアメリカの食べ物の方を好んでいたことに驚きました。

3週間というのは長いようで短かったです。もう少しいたいという気持ちの方が、帰りたい気持ちより大きかったです。もし、今年の夏の他のホストファミリーが日本に来たら、会ってたくさんおしゃべりしたいです。そしていつかもう一度アメリカへ行き、アマンダに会いたいと思います。

「心からのありがとう」

甲陵中学校 長谷川 舞

帰国前日のフェアウェルパーティー。私は心の底から、まだ帰りたくないと思った。長いと思っていた3週間はあっという間で、やっとホストファミリーと打ち解けられた所でお別れるのは、とてもさみしくてつらかった。感謝の気持ちをこめてスピーチをした。泣かずにはいられなくて、沢山のティッシュを消費した。それほど、ホストファミリーや沢山の人がお世話になった。思い起こせばきりが無いほどの人たちが、私に親切にしてくれた。だから、泣かずにはいられなかった。

クリスマスやお正月を日本以外で過ごすのは初めてのことだった。教会に連れて行ってもらったり、家で盛大にパーティーを行ったり、アメリカのクリスマスは本格的だった。お正月は日本ほど重視されてはいなかったけれど、沢山の料理にかこまれて、沢山の人がかこまれて、楽しい時間を過ごした。他にも思い起こせば、大きなモールに買い物に連れて行ってもらったり、家で映画鑑賞をしたり、一緒にお菓子を作ったりもした。全てのことを楽しんで、今思い出してもニヤけてしまうほどの事が多くあった。ここに書ききれないぐらい、沢山の思い出がいっぱい

いだ。

帰国前に、ホストシスターがくれた手紙にこう書いてあった。「あなたは私達家族の一員です。」彼らはこんな私を家族の一員として迎えてくれた。こんなに幸せで嬉しいことはない。感謝以外の言葉が見つからない。本当に、本当にありがとう。

そして、今回のこの研修は、アメリカ行きをすすめてくれた家族、全力でサポートして下さった職員の皆さん、旅行会社の方々、沢山の方のおかげで成り立っている。こんな貴重な体験をさせて頂いてありがとうございます。

またアメリカに行く事があれば、フェアフィールドに「ただいま」と言いたい。



ホームステイを終えて

引率者 葦崎東中学校教諭

渡邊 直美

3週間に渡るフェアフィールド市での滞在は、6人の学生だけでなく、私にとっても貴重な経験となりました。中学生・高校生の間にこのような経験ができるということは、とても幸せなことだと思います。学生間の姉妹都市交流が20年以上も続いているだけあり、他では体験できないプログラムが多くありました。

まず、このプログラムの一番の特徴は学校訪問だと思います。今回は、高校4校、中学校1校、小学校1校を訪問しました。それぞれの学校では授業に参加したり、日本とアメリカの学校生活の違いなどについて生徒からの質問に答えたり、習字や折り紙を通じて文化交流をするなどし、アメリカの学校の雰囲気を感じることができました。

また、市議会のスピーチも他では体験できないものだと思います。毎回、テレビとインターネットで中継される市議会の始めに、それぞれの生徒がアメリカでの驚きや体験、日本での生活などについて話す機会に恵まれました。みんなとても緊張していました。素晴らしいスピーチができたと思います。

そして、

何より素晴らしいのは、3週間という長期

のホームステイをすることで、心の奥深くまで刻み込まれる思い出がたくさんできるということです。

今回の滞在中は、カリフォルニア州を満喫することができただけでなく、何ものにもかえがたい友情を深めることができました。受け入れ先のホストファミリーはどの家庭も優しく温かく学生を迎えてくれました。そして、ホストシスター達とはフッションや好きなスターなどの話をしたり、一緒に買い物やゲームをしたり楽しむことができました。最後のお別れパーティーでは、日本人の学生も、ホストシスターも、みんな涙を流し、友情というのは言葉文化の壁を越えられるものなのだと実感しました。

素晴らしいプログラムに引率者として参加させていただき、大変感謝しています。今後も姉妹都市交流が末永く続き、多くの学生が異文化交流を通じて、真の国際人となってくれることを願っています。



ハロー “ケリーのワンポイント英会話”

みなさん、明けましておめでとうございます。
年末年始のお休みは楽しかったですか？

私は、富士吉田のお友達の家で、初めてのお正月を過ごしました。年越しそばやおせち料理を食べましたが、一つひとつにいろいろな意味があるんですね。

浅間神社へ初詣にも行きました。とっても寒かったけど、おみくじを引いたり、達磨さんを買って願掛けをしたり楽しかったです。もちろん、初めて観た“NHK紅白歌合戦”も楽しかったですよ。友達のおかげで、日本のお正月を満喫することができました。でもこれから、もっともっと日本のことを学びたいと思っています。

そこで、一年の初めの今月のワンポイントレッスンです。
アメリカでは新年に向けて誓いを立てる習慣があります。そう「新年の抱負」です。日本でもそのような習慣があるみたいですね。私の場合はもちろん

“I resolve to learn more about Japanese culture!”

(アイ リゾーブ トゥ ラーン モア アバウト ジャパニーズカルチャー)

「日本についてもっともっと学びたい！」って誓いを立てました。

みなさんは2010年に向けてどんな誓いをたてましたか？

“I resolve to ○○○ ○○○.” を使って誓いを立ててみてください！

(アイ リゾーブ トゥ ○○○ ○○○)

それでは、今年もよろしくお祈りします！ また来月号でお会いしましょう！

